

# 広島大学における 教育の内部質保証システム

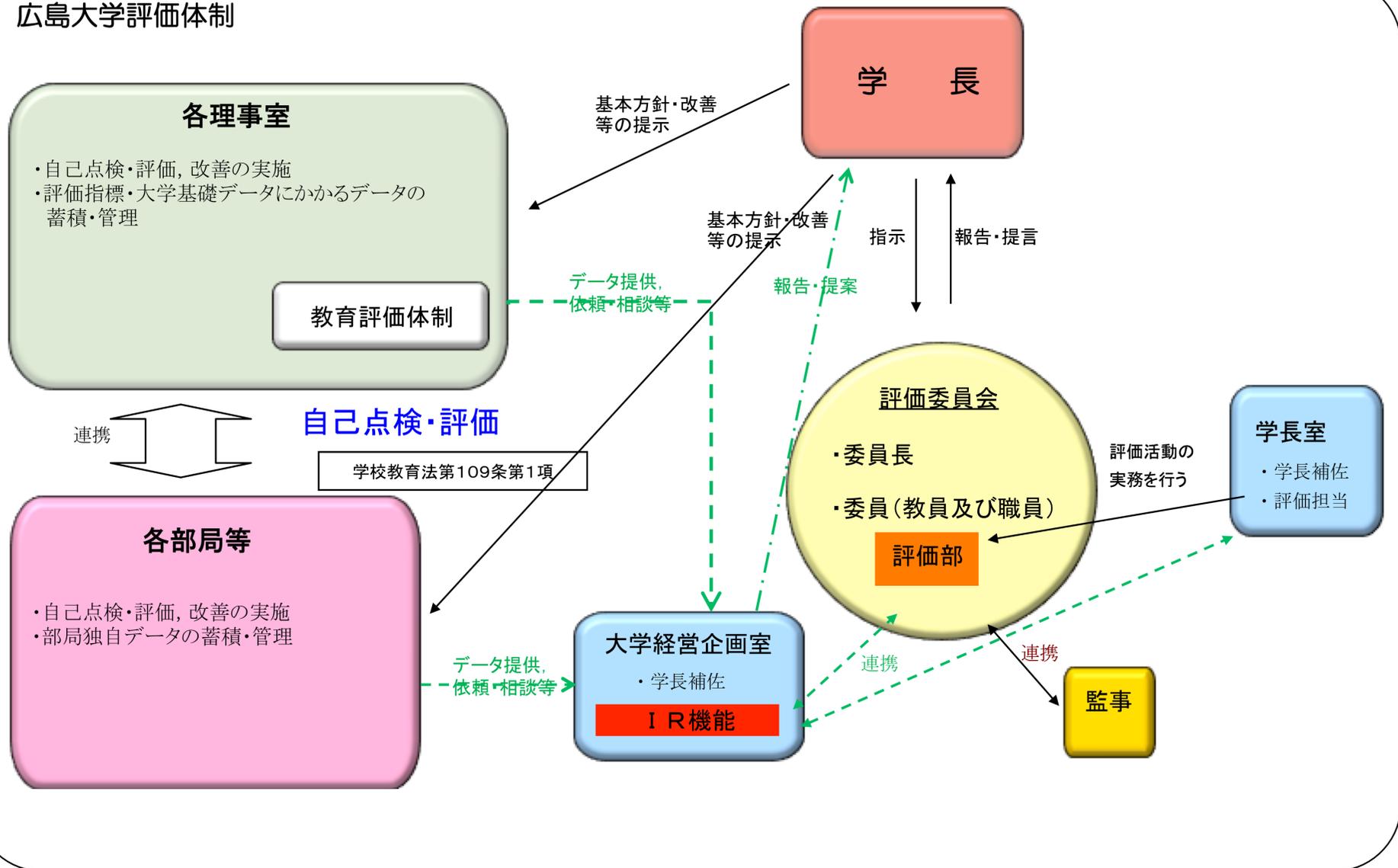
広島大学教育・国際室  
副理事(教育改革担当)  
古澤修一

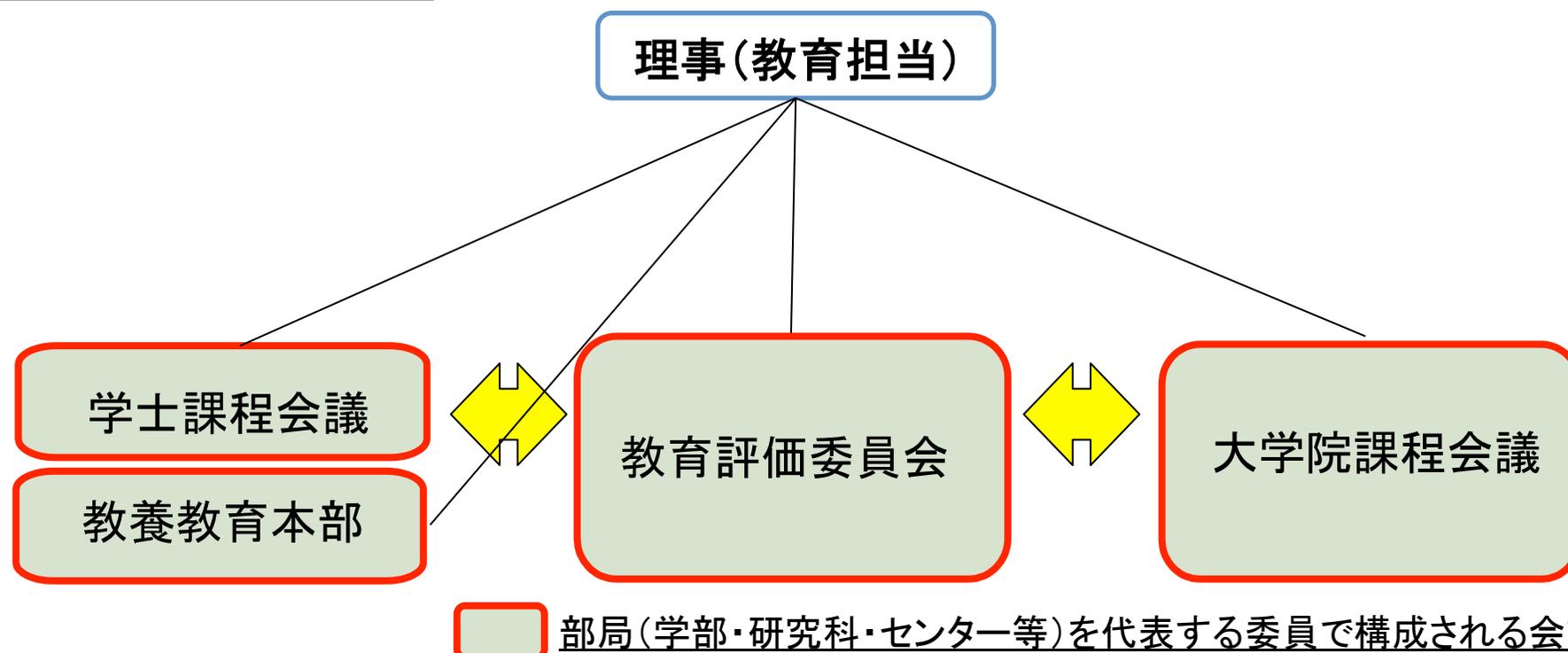
# 目次

1. 広島大学の内部質保証システム
  - 評価・改善体制
  - 理事室機能と教育体制
2. 到達目標型教育プログラムの導入・実施・改革の方向性
  - HiPROSPECTS (R) の仕組みと現状
  - 導入後6年間の実績と課題
  - 改善の方向性
3. 内部質保証システムの課題と展望
4. 教育の質保証としてのeラーニングPF

# 1. 広島大学の内部質保証システム

広島大学評価体制





### 教育評価委員会：

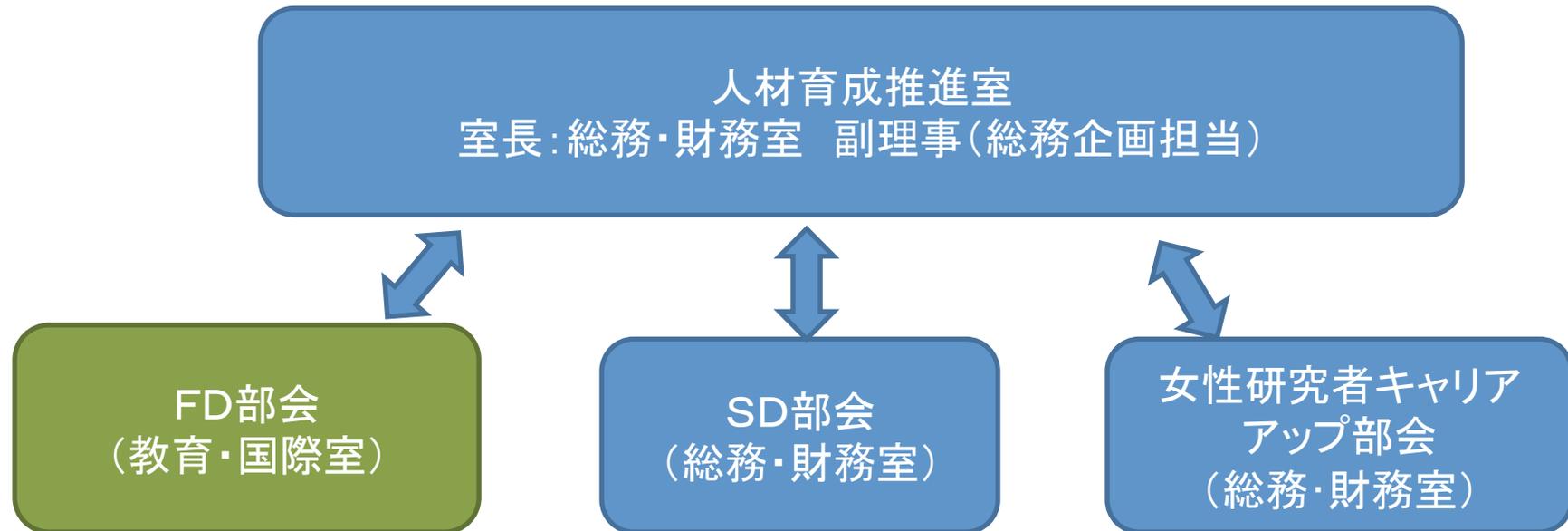
学士課程教育及び大学院課程教育における点検・評価を行うため。

(評価委員会が行う大学としての認証評価に関することを除く。)

### 所掌業務：

- (1) HiPROSPECTS®のPDCAサイクルにおける具体的点検項目及び点検方法の提案。
- (2) 大学院課程教育における点検・評価方法の検討。
- (3) 点検項目に対応するエビデンス蓄積の具体的方法の周知。
- (4) その他教育評価に関すること  
(学生の学業成績評価並びに到達度評価に関する事項を除く。)

# 教育活動の改善体制(全学のFD体制)



**FD部会: 学士課程, 大学院課程の教育改善**  
(委員構成)

- ・高等教育研究開発センター教員(部会長)
- ・**大学院課程会議委員(議長)**
- ・**学士課程会議委員(議長)**
- ・**教養教育本部教員(専任教員)**
- ・副理事(総務企画担当): 人材育成推進室長
- ・副理事(教育支援担当)
- ・副理事(教育改革担当)
- ・教育支援グループ専門員(評価・改善担当)
- ・その他FD部会が必要と認めた者  
(**教育評価委員会委員長**)

## <主な全学FD>

TA研修会

チューター研修会

新任教職員研修会

授業方法研修会

ティーチングポートフォリオ研修会

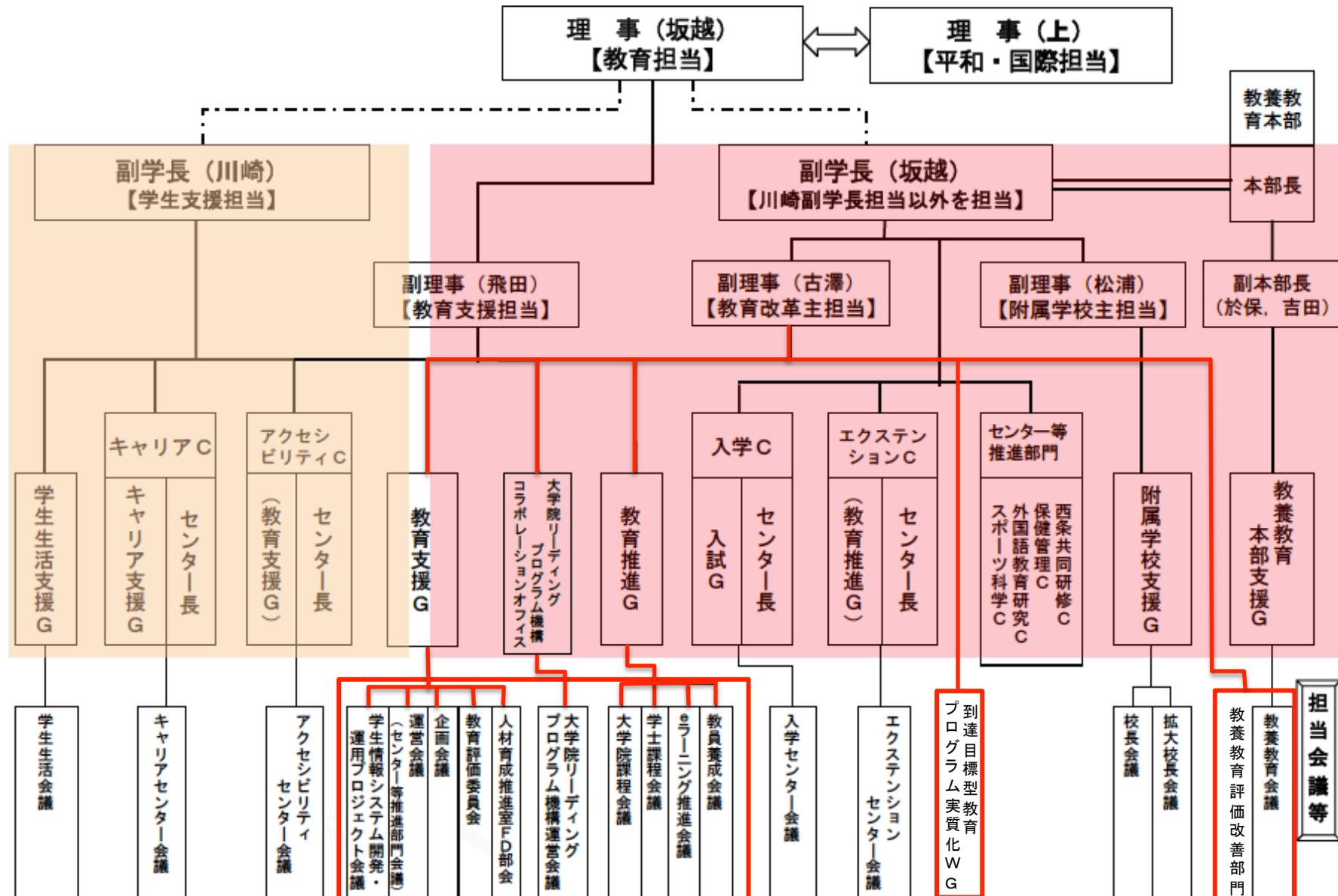
PBLワークショップ

高等教育研究センターの研究会

# 教育国際室の体制

## 平成24年度 教育・国際室等運営体制図

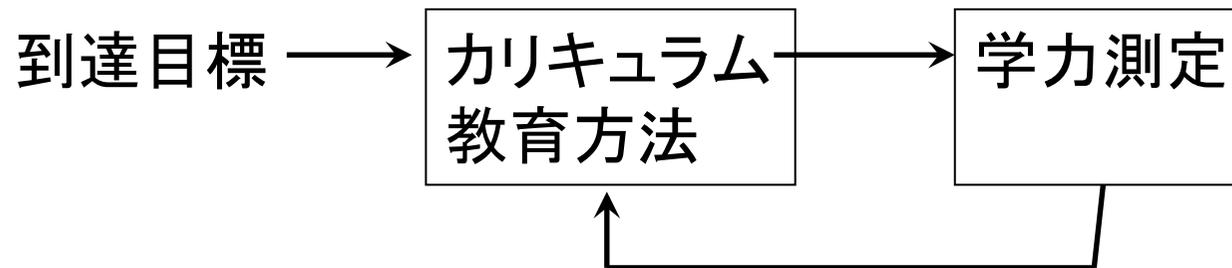
【平成24年4月1日現在】



## 2. 到達目標型教育プログラムの 導入・実施・改革の方向性

## HiPROSPECTS®の基本原則

- 到達目標型教育とは、あらかじめ教育目標を明確に設定し、その目標を実現するためのカリキュラムを準備し、学生がその目標に到達できたかどうかを絶対評価する教育方法である。
  - \* 教育方法とは、教育体制、指導方法、教材等を指す。
- 到達目標型教育システムは、
  - ①到達目標設定、
  - ②学力測定および
  - ③カリキュラム・教育方法の見直しの三点セットからなる。



必要に応じてカリキュラムや教育方法の見直し

「到達目標型教育に向けて(答申)」

H14.7.12

つまり、到達目標型プログラムは教育の内部質保証システムを構築するために実施された。

## HiPROSPECTS®の構造

### 目的別プログラム

(全学生が履修)

#### **主専攻プログラム(66プログラム)**

(各学部・学科等が学士号取得を目的に提供するカリキュラム)

学生の多様な学習ニーズに対応(希望学生のみ履修)

#### **副専攻プログラム(52プログラム)**

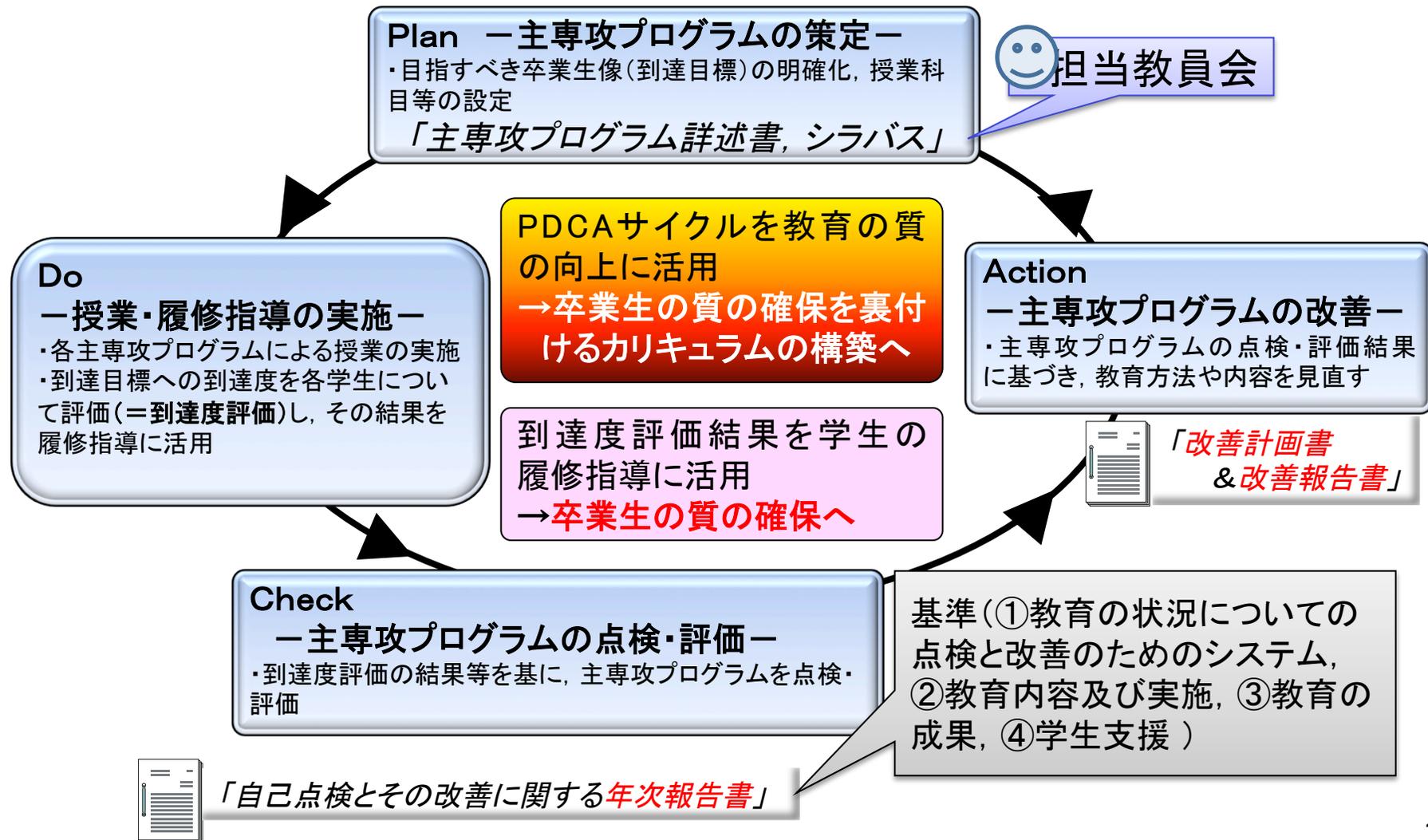
(他の主専攻プログラムの基礎・概要等の学習を目的としたカリキュラム。修了要件単位:16~30)

#### **特定プログラム(11プログラム)**

(特定のテーマの学習又は資格取得を目的としたカリキュラム。例えば、英語プロフェッショナル養成特定プロ、学芸員資格取得特定プロ等。修了要件単位:約10)

# 到達目標型教育プログラムの導入

広島大学のHiPROSPECTS®は、主専攻プログラムにおけるこれら一連のPDCAサイクルにより、卒業生の質を確保すると共に、それを裏付けるカリキュラムの構築を目指している。



## 到達度評価項目

大項目	小項目	ルーブリック	備考
<ul style="list-style-type: none"><li>・知識理解</li><li>・知的能力・技能</li><li>・実践的能力・技能</li><li>・総合的能力・技能</li></ul>	各プログラムの内容に合致した小項目を作成	小項目のルーブリックを作成。 <ul style="list-style-type: none"><li>・Best</li><li>・Modal</li><li>・Threshold</li></ul>	到達度を評価する講義科目

↑  
広大で統一

# 到達目標型教育プログラムの導入

## HiPROSPECTS®の構造

### 主専攻プログラム詳述書 (教育学)

#### 別紙4 到達目標評価項目と評価基準(ルーブリック)

##### ○ 知識・理解

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ ( ) 内は履修シスター
1) 教育哲学、日本東洋教育史、教育史、教育方法学、教育学、教育比較教育学、営学、幼児高等教育、教育関連基礎を習得する。	教育関連諸科学	教育関連諸科学の	教育関連諸科学の	教育哲学(2)

##### ○ 実践的能力・技能

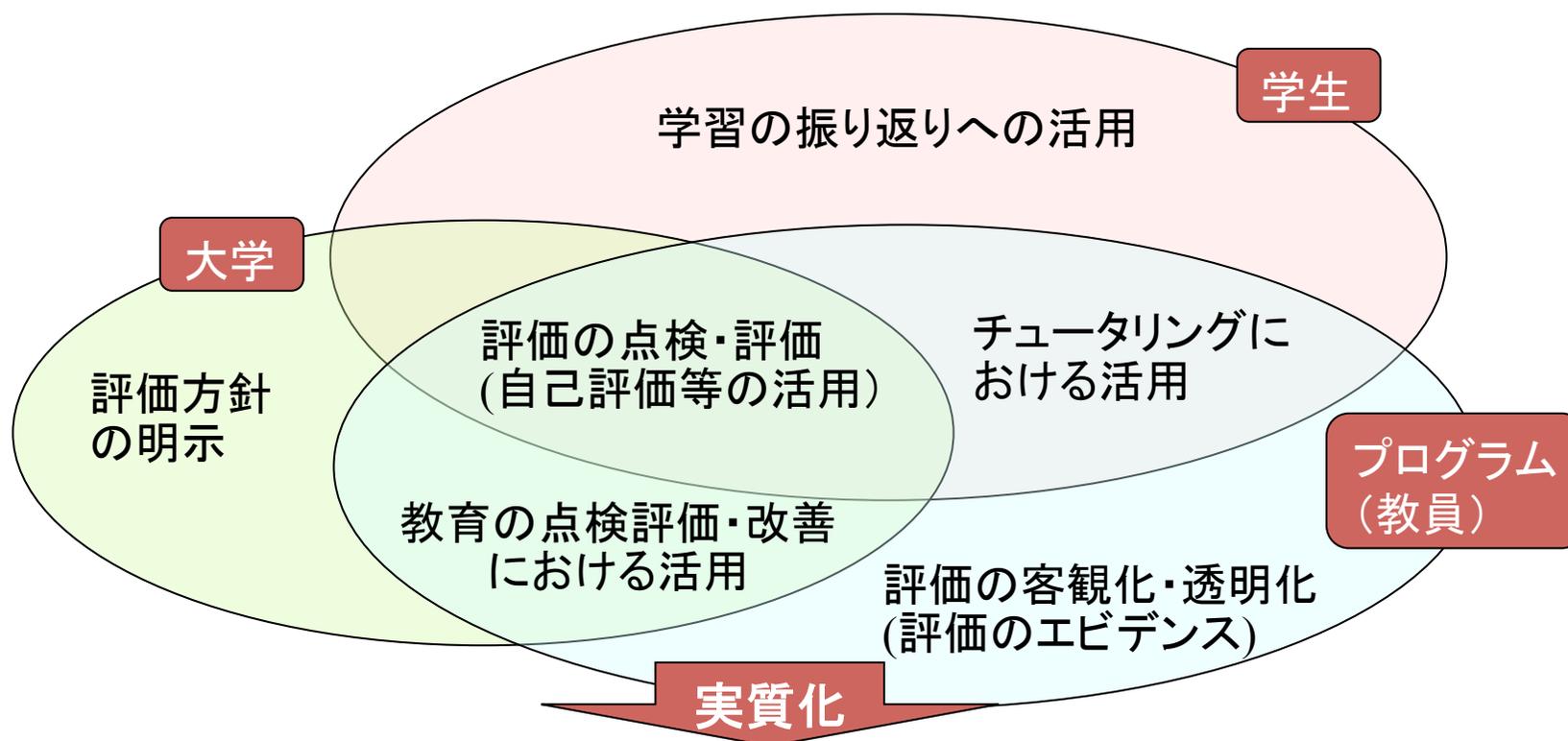
評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ ( ) 内は履修シスター
1) 現代の多様なメディア状況に対応し、図書館、資料・史料館、インターネットなどを駆使して、教育に関する情報を収集できる。	自らの知識と理解を広げるために、図書館、資料・史料館、インターネットなど多様なメディアを駆使して、広範な領域から一次および二次情報を収集できる	自らの知識と理解を広げるために、図書館、資料・史料館、インターネットなど幾つかのメディアを駆使して、関連情報を収集できる	図書館、資料・史料館、インターネットなどの利用法を知っており、授業等における参考文献・情報を収集できる	教育哲学課題演習(5・6) 日本東洋教育史課題演習(5・6) 西洋教育史課題演習(5・6) 教育社会学課題演習(5・6) 教育方法学課題演習(5・6)

評価項目  
(期待される成果)

到達度(Best, Modal, Threshold)の  
基準(ルーブリック)

当該項目を評価  
する科目名

# 到達目標型教育プログラムの課題



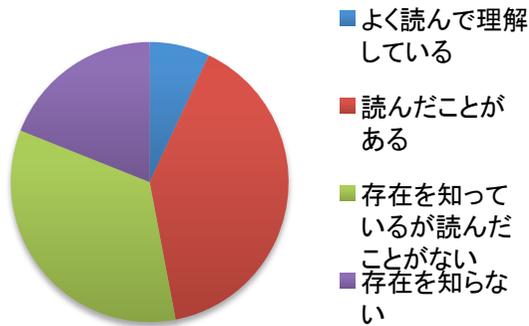
- 学生が他者に向かって学生自身の力を具体的に説明できる大きなメリットを与える (「教育プログラム実施要綱」平成18年)
- 定量的なプログラム到達度の測定をもとにした評価点検を絶えず行い, PDCAサイクルによってプログラム自身の向上を図る (同上)
- 目標への一人ひとりの到達度を学期ごとに知らせ, それに応じた学習へのアドバイス等を行う (本学ホームページ)

褒める評価から社会的実効性のある評価へ

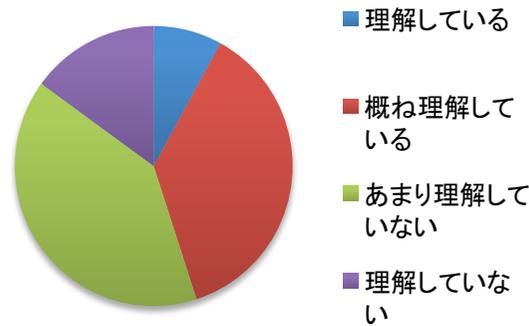
## 教育プログラムの評価

- 所属している主専攻プログラムの詳述書を読んだことがあるか
- 所属している主専攻プログラムの到達状況を評価するための評価項目等を理解しているか
- 主専攻プログラムの評価項目と授業の関係を理解しているか
- 授業の履修に際して、主専攻プログラムの到達目標を意識したか
- 提供されている科目を履修することにより、到達目標を達成できると思うか
- ガイダンスや個別指導等により、到達目標達成にする指導は適切に行われたか

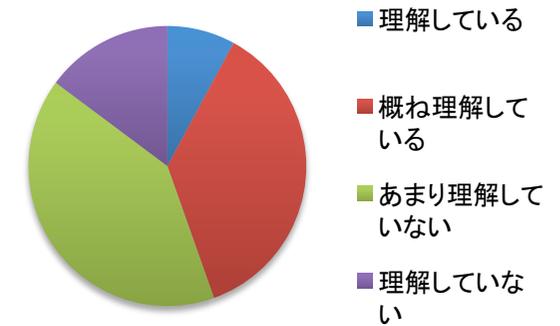
## 到達目標型教育プログラムについて(学生の評価)



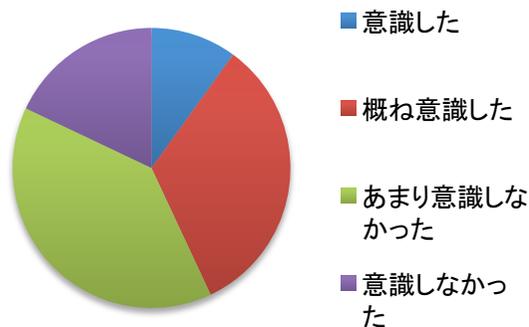
所属している主専攻プログラムの  
 詳述書を読んだことがあるか



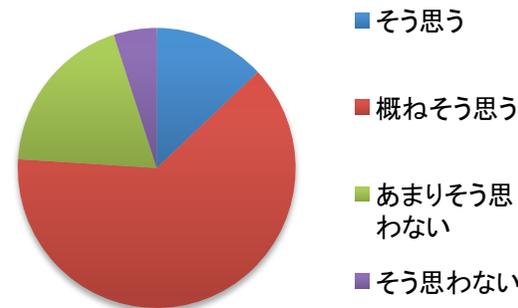
所属している主専攻プログラムの  
 到達状況を評価するための  
 評価項目等を理解しているか



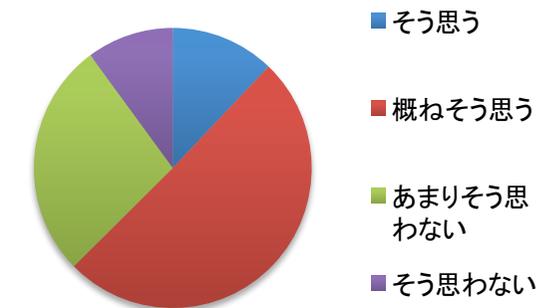
主専攻プログラムの評価項目と  
 授業の関係を理解しているか



授業の履修に際して、主専攻プログラムの  
 到達目標を意識したか



提供されている科目を履修することにより、  
 到達目標を達成できると思うか



ガイダンスや個別指導等により、  
 到達目標達成にする指導は適切に行われたか

## 教育プログラムの問題点

- ハイプロの中核部分である主専攻プログラムの詳述書, およびその実施に関わる評価項目等は, 学生に十分浸透していない。
- 学生自身は提供されているカリキュラムを履修すればそのプログラムの一般的な到達目標を達成することができると考えている。
- 教員による到達度評価を活用した指導が十分に行われていない。
- 詳述書が学生にわかりやすく伝えるための工夫が必要。
- 教員の共通理解が必要。

# HiPROSPECTS®の改善

導入時期：平成27年度入学生から導入する。

現行の問題点	改善策	改善策で期待できる効果
【行動計画2012】到達目標教育プログラムの検証・見直し。		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生にプログラムの到達目標や評価項目の理解が浸透していない。(実質化されていない)</li> <li>・卒業要件との関係性が分かり難く、学生は到達目標及びを教養教育履修の目的を意識して授業計画を立てていない。(到達目標の卒業基準化)</li> <li>・到達目標が未到達で卒業する場合もあり、到達目標と単位・学位の関係が明らかでなかった。</li> </ul>	1. 到達目標に沿った履修表を作成する。※卒業要件(単位取得)を満たせば、自ずとプログラムで設定した到達目標を達成できるように、カリキュラムおよび科目を構成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆到達目標と単位・学位の関係が分かり易くなる。</li> <li>◆プログラムが提供するカリキュラムにより、身につく能力を保証できる。</li> <li>◆学生が到達度目標を意識して授業計画を立てられるようになる。</li> <li>◆カリキュラムにおける教養教育履修の目的が明確となり、到達目標における専門教育との融合が可能となる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価と到達度評価の関係が不明確</li> <li>・教養教育科目の到達状況が測定できていない。</li> <li>・教員の学生指導に使える到達度評価になっていない。</li> <li>・学生が使える到達度評価になっていない。</li> </ul>	2. 到達度の測定方法の変更	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆成績評価と到達度評価の関係が明確になる。</li> <li>◆教員の負担軽減</li> <li>◆教養教育科目も含めた到達状況の測定により、到達目標と単位・学位の関係が分かり易くなる。</li> <li>◆学生が到達度目標を意識して授業計画を立てられるようになる。</li> <li>◆教員の学生指導に利用できるようになる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・到達状況の確認がわかり難い。(学生が見える到達度評価になっていない)</li> <li>・体系的なカリキュラムを構築するために行う情報共有が教員間でできていない。</li> <li>・教員もHiPROSPECTS®の理解が十分でない。</li> </ul>	3. 到達状況をレーダーチャートで示す。 4. 教育プログラム実施体制を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆学生の省察に使える。</li> <li>◆教員の学生指導に利用できるようになる。</li> <li>◆継続的に体系付けられたカリキュラムが構築できる。</li> <li>◆カリキュラムの改善に使える。</li> </ul>
【行動計画2012】授業科目ナンバリングの導入		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業科目ナンバリングの導入</li> </ul>	5. 授業科目ナンバリングの導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆学生が適切な授業科目を選択する手助けとなる。</li> </ul>

# 3つのポリシー

**ディプロマ・ポリシー**: 学位授与の方針。各主専攻プログラムが、その教育理念や特色等に基づいて、どのような能力があれば、当該学部などで学位授与に値するのかの考え方をまとめたもの。

**カリキュラム・ポリシー**: 教育課程編成・実施の方針。各主専攻プログラムが、その教育理念や特色等を踏まえ、学位授与に値する学生を育成するために、どのような教育活動を行うかの考え方をまとめたもの。

**アドミッション・ポリシー**: 入学者受入れ方針。各主専攻プログラムが、どのような能力や適性等を有する学生を求めているかなどの考え方をまとめたもの。  
→入学者の選抜方法や入試問題の出題内容等にはこの方針が反映されている。

各機関の個性・特色の根幹をなすものとして、三つの方針において、大学の個性・特色は具体的に反映されるものである。

# 1. 到達目標に沿った履修表を作成する。

学位授与方針(ディプロマポリシー)を実現できる到達目標を設定



## 到達目標に沿った履修表の作成

※学生が卒業要件(単位取得)を満たせば、自ずとプログラムで設定した最低限の到達目標を保証できるように科目を構成する。

プログラムで責任を持って開講する授業科目や設定している教養科目, 選択科目により, 学位授与方針を満たすように各授業科目の内容およびカリキュラムを構築する。

卒業要件単位の修得



学位授与方針(ディプロマポリシー)の実現



プログラムとして, 学生の到達度を保証

### 【期待される効果】

- ◆到達目標と単位・学位の関係が分かり易くなる。
- ◆プログラムが提供するカリキュラムにより, 身につく能力を保証できる。
- ◆学生が到達度目標を意識して授業計画を立てられるようになる。
- ◆カリキュラムにおける教養教育履修の目的が明確となり, 到達目標における専門教育との融合が可能となる。

# 到達目標に沿った履修表(例)

	科目名	種類	単位数	受講セメスター								評価項目								
				1	2	3	4	5	6	7	8	知識・理解Ⅰ		能力・技能Ⅱ		実践・汎用的能力・技能				
				当該分野固有の必要な知識・理解(I-1)	汎用的な知識・理解(I-2)	当該分野固有の能力・技能(II-1)	汎用的な能力・技能(II-2)	問題発見・解決力(III-1)	発信力・傾聴力(III-2)	データの収集・解析・まとめ	論理的思考力(IV-1)									
教養科目	教養ゼミ	必修	2	○								0.5	0.5	0.5	0.5					
	平和科目	必修	2		○							1	1							
	総合科目	必修	2				○					0.5	0.5	0.5						
	外国語科	必修	1	○								0.5	0.25		0.5					
	略																			
	情報科目	情報科目	必修	2	○								0.5	0.5	0.5			0.5		
	パッケージ科目	パッケージ科目1	必修	2		○							0.5	0.5				1		
	パッケージ科目	パッケージ科目2	必修	2		○							0.5	0.5				1		
	略																			
	基盤科目	微分積分通論	必修	2	○								1	1						
略																				
健康スポーツ科目	健康スポーツ科目	必修	1	○													1			
健康スポーツ科目	健康スポーツ科目	必修	1		○												1			
領域科目	領域科目1	選択必修	14		○							1								
領域科目	領域科目7	選択必修			○															
略																				
専門科目	専門基礎科目	生化学入門	必修	2	○							1	1							
		生物統計学	選択必修				○					0.5	0.5	0.5			0.5			
		生物物理化学	選択必修				○					1	1							
		公衆衛生学	選択必修				○					0.5	0.5							
	専門科目	外書購読	必修	2				○					0.5	0.5			0.5			
		酵素化学	必修	2				○					1			1				
		分子遺伝学	必修	2				○					1			1				
		動物分子生物学	必修	2				○					1			1				
		化学生態学	必修	2				○					1			1				
		略																		
その他の選択科目0	選択					○					1	1	1							
その他の選択科目7	選択					○					1	1	1							
				128									10	14.5	1	10.75	7	2.5	1	5.5

全学共通の評価項目の他、各主専攻プログラムで追加設定が可能。

科目の修得によって得られる「成果」の比重を単位数を分割して示す。

卒業要件「単位数」を充足した時に得られる「成果」の最低基準「単位数」

# プログラムの到達目標と学習成果

平成18年  
導入

## 広島大学「HiPROSPECTS®」

- 知識・理解
- 知的能力・技能（情報収集処理能力，解析能力，論理的思考能力など）
- 実践的能力・技能（実験技術，社会調査能力，論文作成力など）
- 総合的能力・技能（問題解決能力，研究力，IT，コミュニケーション力など）

### 文部科学省「学士力」(平成20年12月)

- 知識・理解 多文化・異文化に関する知識の理解  
人類の文化，社会と自然に関する知識の理解
- 汎用的能力 コミュニケーション・スキル，数量的スキル，  
情報リテラシー，論理的思考力，問題解決力
- 態度・志向性 自己管理力，チームワーク・リーダーシップ，  
倫理観，市民としての社会的責任，生涯学習力
- 総合的な学修経験と創造的思考力  
獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し，自らが立てた  
新たな課題にそれらを適用し，その課題を解決する能力

### 経済産業省「社会人基礎力」(平成18年2月)

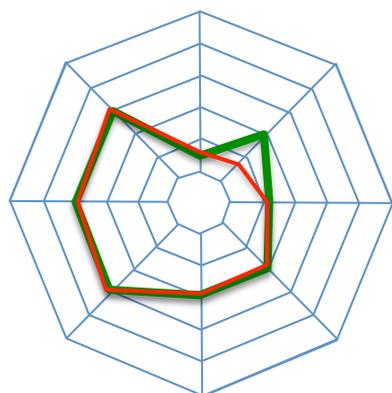
- 前に踏み出す力 主体性，働きかけ力，実行力
- 考え抜く力 課題発見力，計画力，創造力
- チームで働く力 発信力，傾聴力，柔軟性，  
状況把握力，規律性，  
ストレスコントロール力

## 広島大学「新しいHiPROSPECTS®(案)」

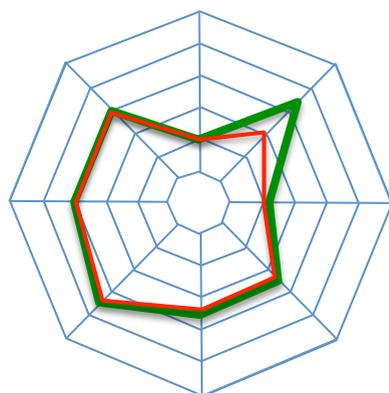
	小項目	具体的な内容
知識・理解	当該分野固有の必要な知識・理解	当該分野の基礎となる知識理解
	汎用的な知識・理解	多文化・異文化に関する知識の理解 人類の文化，社会と自然に関する知識の理解 平和に関する知識
能力・技能	当該分野固有の能力・技能	当該分野の知識を応用できる能力・技能 倫理的思考力
	汎用的能力・技能	批判的思考力・総合的判断力，表現力，情報リテラシー，異文化理解力
実践・汎用的 能力・技能	問題発見・解決力	計画力，創造力，主体性，実行力，発信力，柔軟性，状況把握力，規律性
	発信力・傾聴力	発信力，傾聴力，コミュニケーション能力 継続性，協調性，調整力
	データの収集・解析・まとめ 論理的思考力	データの収集・解析・まとめと，とりまとめる能力 論理的思考力

※態度・志向性は、全ての授業科目で養成する。

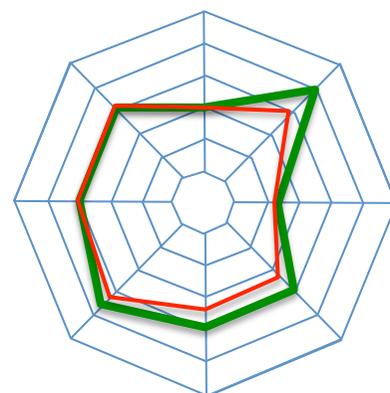
# 到達状況をレーダーチャートで示す。



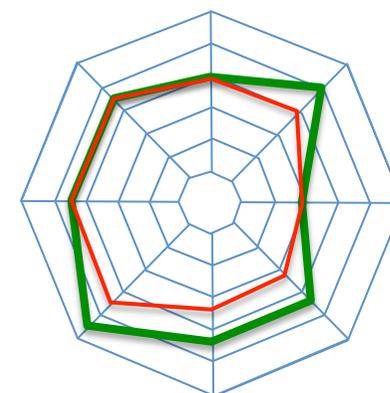
1セメ



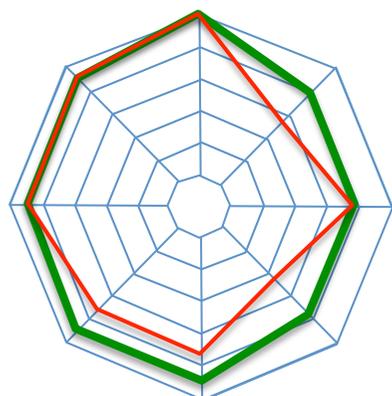
2セメ



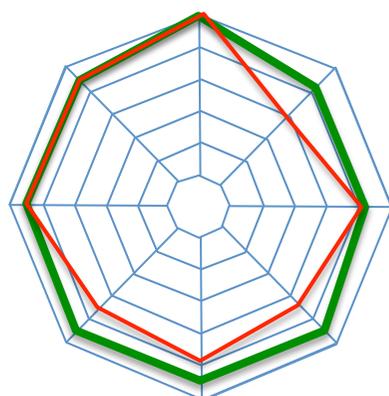
3セメ



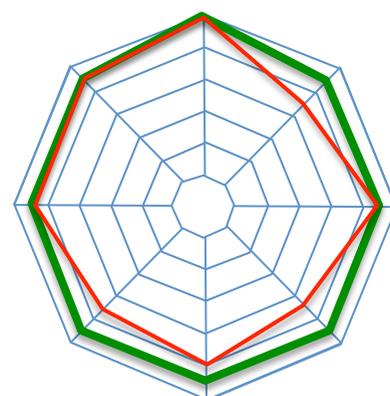
4セメ



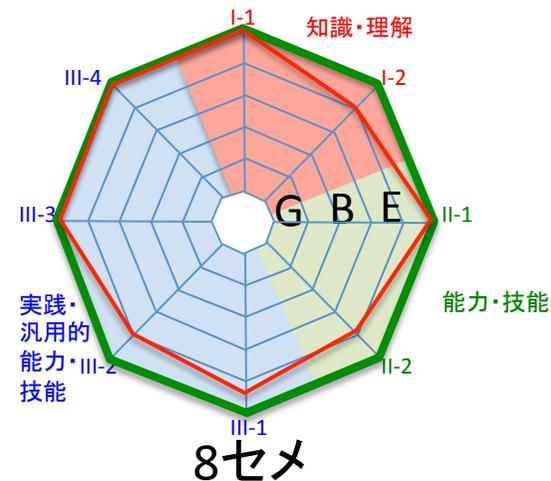
5セメ



6セメ



7セメ



8セメ

I.知識・理解	I-1当該分野固有の必要な知識・理解	I-2汎用的な知識・理解
II.能力・技能	II-1当該分野固有の能力・技能	II-2汎用的能力・技能
III.実践・汎用的能力・技能	III-1問題発見・解決力	III-2発信力・傾聴力
	III-3データの収集・解析・まとめ	III-4論理的思考力

## 【期待される効果】

- ◆学生の省察に使える。
- ◆教員の学生指導に利用できるようになる。

# 到達状況をルーブリックで示す。

【ルーブリック(案)】

				Excellent	Better	Good
全学共通項目	知識・理解(I)	当該分野固有の必要な知識・理解(I-1)	当該分野の基礎となる知識理解	〇〇することができる	〇〇することができる	〇〇することができる
		汎用的な知識・理解(I-2)	多文化・異文化に関する知識の理解、人類の文化、社会と自然に関する知識の理解、平和に関する知識			
	能力・技能(II)	当該分野固有の能力・技能(II-1)	当該分野の知識を応用できる能力・技能、倫理的思考力			
		汎用的能力・技能(II-2)	批判的思考力・総合的判断力、表現力、情報リテラシー、異文化理解力	各主専攻プログラムにおけるExcellent, Better, Goodの基準を示す。		
	実践・汎用的能力・技能(III)	問題発見・解決力(III-1)	計画力、創造力、主体性、実行力、発信力、柔軟性、状況把握力、規律性			
		発信力・傾聴力(III-2)	発信力、傾聴力、コミュニケーション能力、継続性、協調性・調整力			
		データの収集・解析・まとめ(III-3)	データの収集・解析・まとめと、とりまとめる能力			
		論理的思考力(III-4)	論理的思考力			

↑ 全学共通項目の他、各主専攻プログラムで追加設定が可能

- 【期待される効果】
- ◆ 学生の到達度評価を言葉で言い換えることができる。
  - ◆ 卒業生像を外部の人間に説明することができる。

# 4. 教育プログラムの内容と実施体制を強化する。

## ープログラム(教育課程)構築のステップー

(1) 担当教員会の開催を義務付ける。

(2) 担当教員会が行う必要のある具体的な作業項目を示す。

1) どのようなことができる人を育てるプログラムを作りたいのか？

現状自己評価・全学教育目標・資源分析・卒業生受け入れ企業分析を参考に、コンセプトを構築する。

【学位授与方針／到達目標の策定】

2) どのような知識・スキルがあれば可能か整理

【到達目標の分割整理】

3) 到達目標に紐づく科目・科目群の単位数、授業形態の策定。

【授業科目の作成】

4) どのような内容で到達評価を括って、授業科目を用意するか。

【授業科目の作成】

5) 個々の授業科目で、どのような比重で到達目標を達成させるか。

【授業科目の作成】

6) そのために有効な素材・教材を決める。

【素材決定】【授業科目の作成】

7) 到達目標を達成させるために、授業科目の難易度と順序を決定。

【カリキュラム構造の作成】

8) シラバス(教育目標・キーワード・授業概要・学生の到達目標・評価指標・評価割合)の作成。

【授業科目の位置付けの整理→詳細の作成】

9) プログラム内でのシラバスの調整

【最終調整】

10) 入学者受け入れ方針の策定

【教育プログラム入学者受け入れ方針作成】

11) 学生への案内。

【詳述書および簡易詳述書(案内書)の作成】

12) プログラムの実施

【実施】

13) 学生自身および担当教員会による到達度の省察 【履修計画の経時的確認、到達目標の経時的確認】

14) 担当教員会による自己点検、卒業生アンケート等による自己評価

【アセスメント】

15) プログラムの検証、ピアレビュー

【評価】

16) 結果の活用によるプログラムの再構築

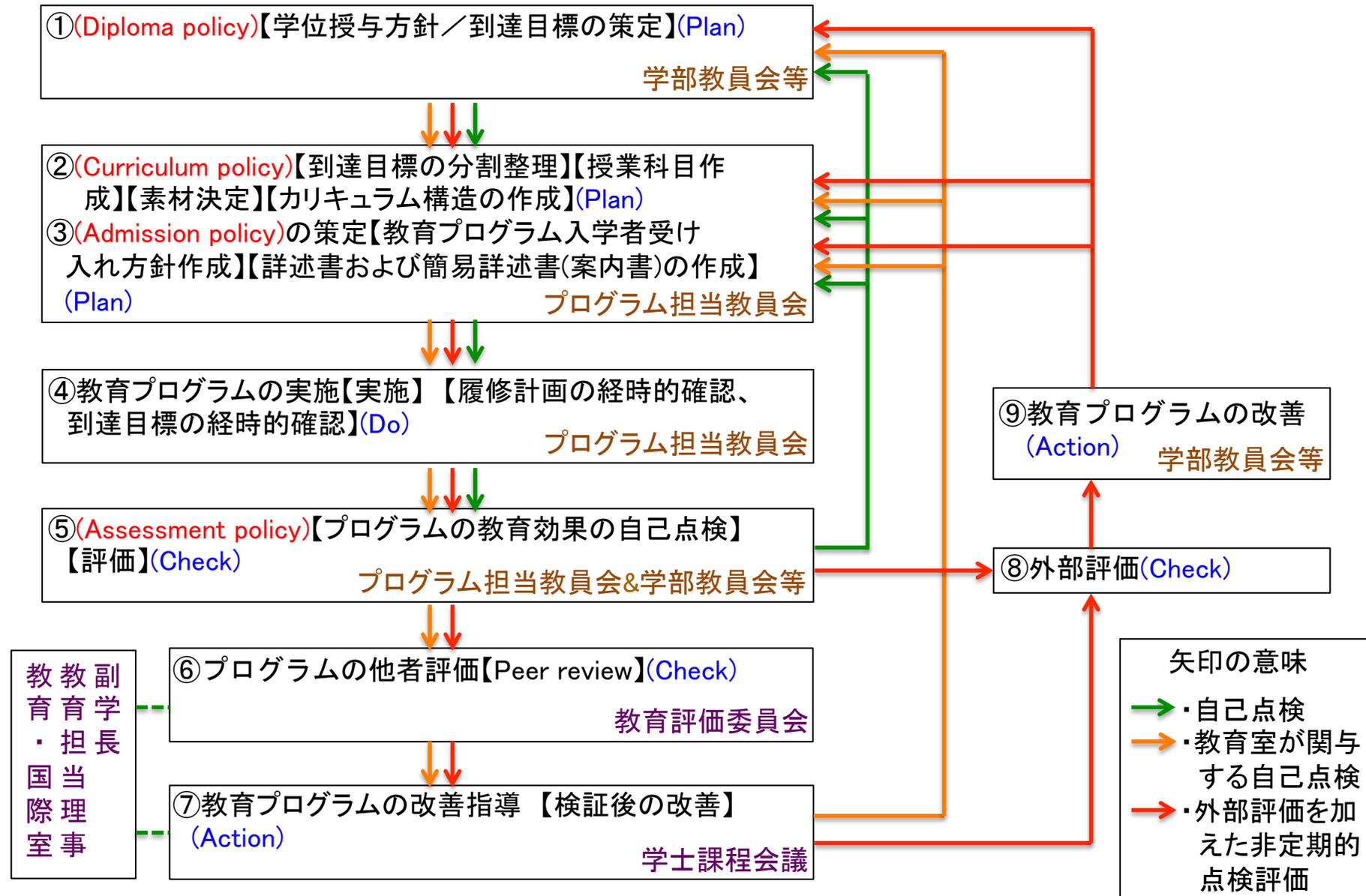
【検証後の改善】

### 【期待される効果】

◆ 継続的に体系付けられたカリキュラムが構築できるようになる。

# 4. 教育プログラムの内容と実施体制を強化する。

## —PDCAのステップ—



【期待される効果】 ◆継続的に体系付けられたカリキュラムが構築できるようになる。

### 3. 内部質保証システムの 課題と展望

# 大学の機能強化へ向けた“大学改革行動計画策定WG”

- ・学士課程教育全体を統轄する組織の設置
- ・学部における入学者選抜方法で「段階評定」の実施
- ・AO入試の充実・拡大の実施
- ・TOEIC, TOEFL等の活用実施
- ・学士課程教育での留学生受け入れ拡大の実施
- ・大学院における入学者選抜方法の検証・見直しの実施
- ・社会人特別選抜・フェニックス特別選抜の拡充の実施
- ・留学生受け入れ拡大のための海外センター活用の促進・留学生特別選抜の実施
- ・学部における「10月入学」の導入（「4月入学」と「10月入学」の実施）
- ・英語で完結する学士課程教育プログラムの実施
- ・**教員PDの実施**
- ・自主的な学修を促進させるための方策, 環境の整備・充実
- ・ライティングセンターの設置
- ・PDの開発・実施組織としてのPD委員会を設置する。
- ・教員評価における教育活動の重視
- ・教育活動に対する適切なインセンティブの導入
- ・教員の教育活動記録の収集と自覚・省察(ティーチングポートフォリオ)の導入
- ・成績評価(成績分布)に関するガイドライン導入
- ・TOEIC スコアの卒業要件化と未到達者への対応策
- ・在学中の全期間に亘る国際語としての英語教育の実施
- ・広大における教養教育の特長の策定
- ・教養教育改革骨子の実質化(さらなる教養教育の改善に向けて)
- ・大学院教育における教養的共通基礎教育の内容と実施方法の策定
- ・到達目標型教育プログラムの検証と実質化
- ・学生の到達度評価システムの見直し(アウトカム基準などの検討)

## 学長が指示した行動計画

- I 学士課程入学者選抜方法の検証・見直し
  - (1)AO入試の充実・拡大
  - (2)大括り入試の検討・導入
  - (3)大学入試センター試験の取扱いの見直し
  - (4)TOEIC, TOEFL等の活用
  
- II 学士課程の充実
  - (1)「4月入学」と「10月入学」を併用
  - (2) 成績評価に関するガイドラインの導入**
  - (3) 英語で完結する国際教養プログラムの導入
  - (4)「4月入学」と「10月入学」を併用
  - (5) 総合科学部の教育プログラムとして「グローバルポリシースタディーズ(仮称)」を設置
  - (6) 3学期制または4学期制への移行について検討
  - (7) TOEICの卒業要件化
  - (8) 教養教育の特長の明確**
    - ・ 授業科目「名著との対話(仮)」の新設・必修
    - ・ **アクティブ・ラーニングの拡充**
    - ・ **学修成果測定へのルーブリックの導入及びeポートフォリオの導入**
    - ・ L字型教養教育の実施
  - (9)到達目標型教育プログラムの検証・見直**
    - ・ **到達目標の卒業基準化**
    - ・ **授業科目のナンバリング**

- Ⅲ 大学院課程の充実
  - (1) 共通基礎科目(大学院での教養教育)の必修化
  - (2) カリキュラムの体系化
    - (1) 入学者選抜方法の検証・見直し
    - (2) 博士課程(後期)の入学定員の充足
    - (3) 入学定員の増
    - (4) 「10月入学」の拡充
    - (5) 社会人特別選抜・フェニックス特別選抜の拡充
    - (6) 外国人留学生特別選抜の拡充
  
- Ⅳ 学修環境の整備
  - (1) ラーニングコモンズの24時間利用
  - (2) eラーニングの活用など自学自習環境の充実
  - (3) 外国人教員の雇用促進(平成28年度5%目標)
  - (4) 1クラス当たりの履修学生数の上限設定
  - (5) 海外研修・留学制度及び国際学会発表支援の充実
  - (6) ライティングセンター設置
  
- Ⅴ 機能強化に向けた基盤整備
  - (1) 教育活動評価の実質化
  - (2) 教員研修の必須化

## 4. 教育の質保証としての eラーニングポートフォリオ

# 全学のePF

生物圏科学研究科で運用開始



生物圏科学研究科で自己点検



広島大学の今後の教育の質保証において、導入を確認



リーディング大学院で、ePFを導入



生物圏科学研究科のePFを全学版に変更



生物生産学部・理数学生支援特別学生プログラムで導入

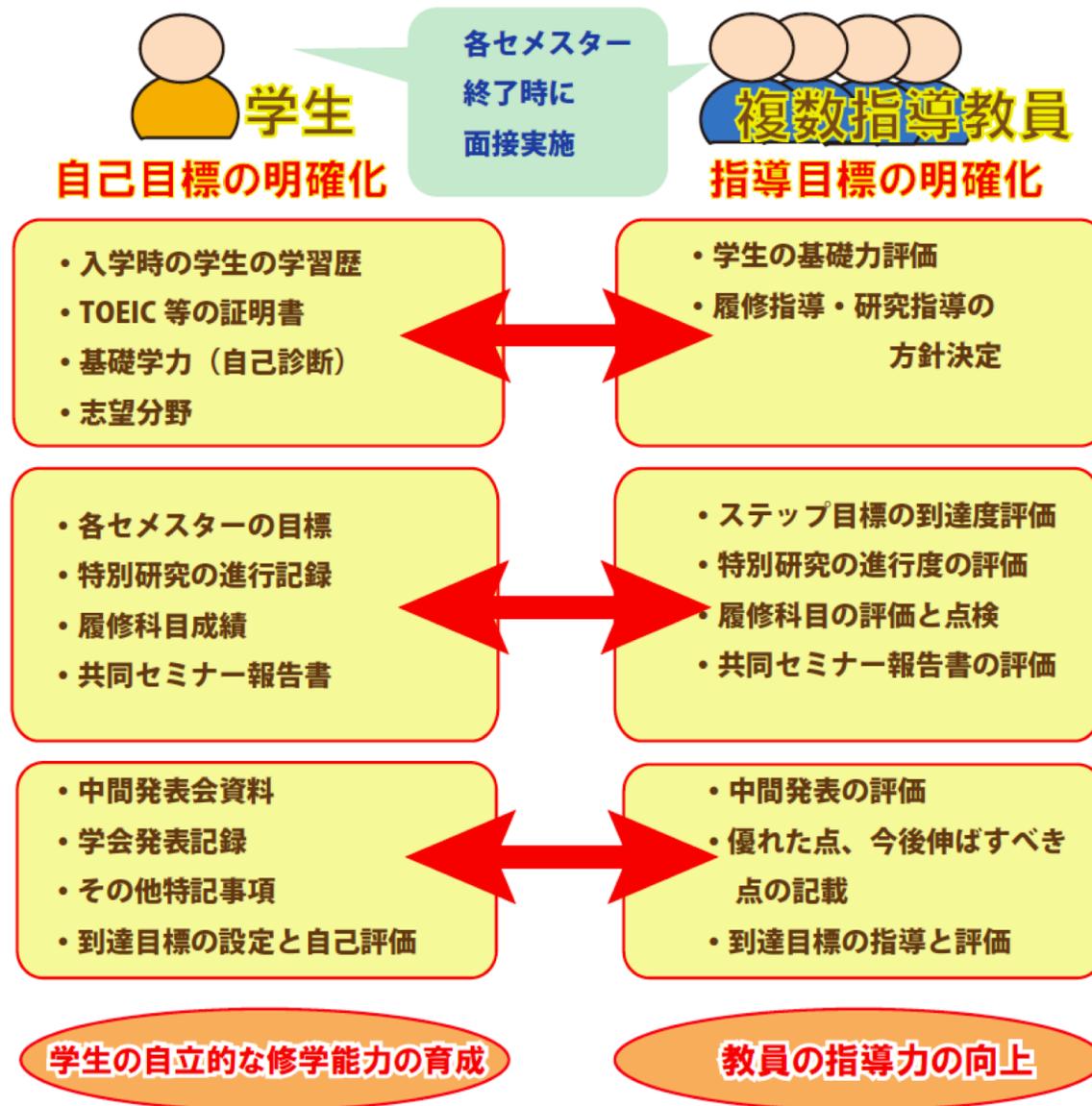


学士課程での導入を検討予定

# eLP = e+(Learning Portfolio)

## 広大型eLPの作成

- ・ 複数指導教員体制の実質化
- ・ 学生の自己評価能力の養成
- ・ 学生の学習データの保管
- ・ 学生の自己アピール能力の養成



# eLP = e+(Learning Portfolio)

- ・ 複数指導教員体制の実質化
- ・ 学生の自己評価能力の養成

- ・ 学生の学習データの保管
- ・ 学生の自己アピール能力の養成

スクラッチ  
チ  
ビルド

大学院 GP

- 「食料・環境系高度専門実践技術者養成スペシャリスト
- ・ゼネラリスト融合型人材育成 HiSuper プログラム」

2010～ 大学院 生物圏科学研究科

リーディングプログラム

- 「放射線災害復興を推進する
- フェニックスリーダー育成プログラム」

2012～ 大学院 博士課程リーダー育成プログラム

?

Mahara  
改修

## 2012～ 大学院 博士課程リーダー育成プログラム

## C研究科

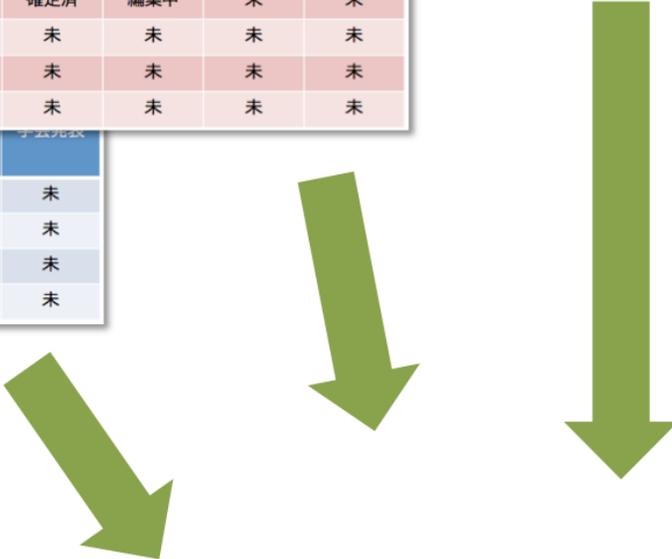
学生	履修計画	研究計画	フィールドワーク	研究活動状況	TOEIC	就職活動状況	学会発表
鈴木一郎	確定済	確定済	編集中	編集中	未	未	未
田中花子	未	未	未	未	未	未	未
佐藤次朗	未	未	未	未	未	未	未
大原麗子	編集中	未	未	未	未	未	未

## B研究科

学生	履修計画	研究計画	研究活動状況	TOEIC	就職活動状況	学会発表
鈴木一郎	確定済	確定済	編集中	未	未	未
田中花子	未	未	未	未	未	未
佐藤次朗	未	未	未	未	未	未
大原麗子	編集中	未	未	未	未	未

## A研究科

学生	履修計画	研究計画	研究活動状況	TOEIC	就職活動状況	学会発表
鈴木一郎	確定済	確定済	編集中	未	未	未
田中花子	未	未	未	未	未	未
佐藤次朗	未	未	未	未	未	未
大原麗子	編集中	未	未	未	未	未



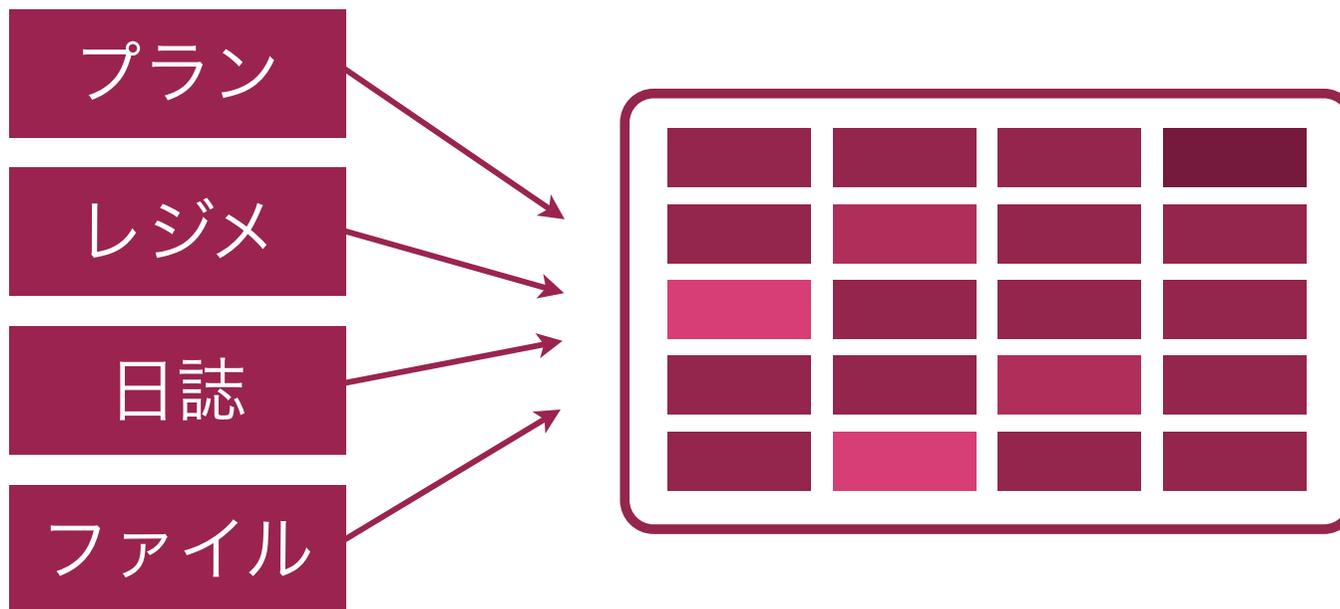
eポートフォリオ  
異なる部局の要望に対応

# 「コンテンツ」を貯める

貯める

+

見る・見せる



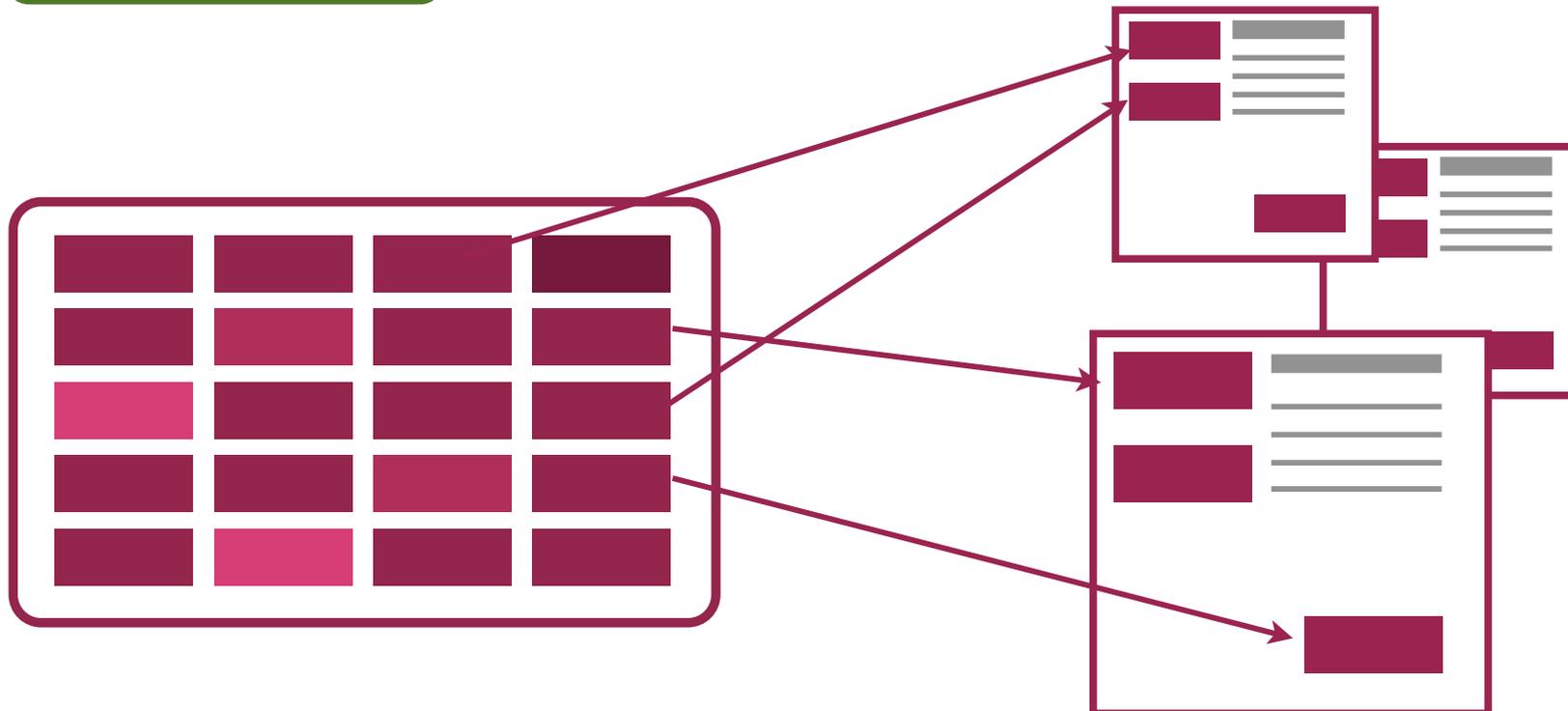
貯める

+

見る・見せる

貯めたコンテンツを

「マイポートフォリオ」で見せる



# 広島大学での研究科横断型大学院教育 におけるeポートフォリオの利用

平成23年度 文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」  
放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム



# eポートフォリオによる 研究科横断型教育-学修の質保証

学生と主・副指導教員は、  
e-ポートフォリオを用いて、学  
生の達成水準を確認する

## Test20130204 学生の自己評価画面

by でもまなぶ

### Achievement

learning goals	2012F	2013S	2013F
International skills	☆☆☆☆ (-)	☆☆☆☆ (-)	☆☆☆☆
Management skills	☆☆☆☆ (-)	☆☆☆☆ (-)	☆☆☆☆
Interdisciplinary skills	☆☆☆☆ (-)	☆☆☆☆ (-)	☆☆☆☆
Diagnose/treat skill	☆☆☆☆ (-)	☆☆☆☆ (-)	☆☆☆☆
Exposure Assessment skills	☆☆☆☆ (-)	☆☆☆☆ (-)	☆☆☆☆
Radiation Dose Assessment skills	☆☆☆☆ (-)	☆☆☆☆ (-)	☆☆☆☆
Skills for pediatric countermeasure	☆☆☆☆ (-)	☆☆☆☆ (-)	☆☆☆☆
Cancer risk assessment skills	☆☆☆☆ (-)	☆☆☆☆ (-)	☆☆☆☆
Mental health assessment/care skills	☆☆☆☆ (-)	☆☆☆☆ (-)	☆☆☆☆
Analytical skills	☆☆☆☆ (-)	☆☆☆☆ (-)	☆☆☆☆
Pollution assessment skills	☆☆☆☆ (-)	☆☆☆☆ (-)	☆☆☆☆
Radioactive contamination assessment skills	☆☆☆☆ (-)	☆☆☆☆ (-)	☆☆☆☆
Radioactive waste management skills	☆☆☆☆ (-)	☆☆☆☆ (-)	☆☆☆☆
Skills for reducing mental stress	☆☆☆☆ (-)	☆☆☆☆ (-)	☆☆☆☆
Family support skills	☆☆☆☆ (-)	☆☆☆☆ (-)	☆☆☆☆
Risk communication skills	☆☆☆☆ (-)	☆☆☆☆ (-)	☆☆☆☆
Community reconstruction support skills	☆☆☆☆ (-)	☆☆☆☆ (-)	☆☆☆☆
Social capital management skills	☆☆☆☆ (-)	☆☆☆☆ (-)	☆☆☆☆
Group decision making skills	☆☆☆☆ (-)	☆☆☆☆ (-)	☆☆☆☆
Earned credits	-----	-----	-----

learning goals	learning objectives	Radiation Chemistry	An Introduction	Biodiversity	Hiroshima Peace	Theories of Social	Cognitive Information-Prooc
International skills	Written communication		■				
	Oral communication						
	Business skills						
	Decision making						
Management skills	Problem finding				■	■	
	Problem solving						
	Self/Community control					■	
	role specification/execution				■		
Interdisciplinary skills	Creative research	■					
	Risk response						■
	Biological assessment	■	■				
	Environmental assessment						
	Stress assesment/reduction						

5段階の自己評価

取得単位数

クリック

記述式自己評価および  
エビデンスの表示

クリック

カリキュラムマップの展開



ご静聴ありがとうございました。